

「難しい」の先に見えるもの

安曾 潤子（インクルーシブミュージアム）

私は、障害をお持ちの方、病院内学級の生徒、一人親家庭の子ども、日本語が母語でない方等、どんな状況の人も自然科学や博物館を楽しめるよう、展示のアドバイスやスタッフに対する研修をしています。その中で、博物館スタッフから発せられる「難しいですよね」という言葉。ただでさえ、「お金がない」、「人が足りない」と叫び続けている博物館で、障害をお持ちの方も楽しめるようにするのは、とても「難しい」ことだと感じるのは、私も地方博物館で学芸員をしていたのでよ〜くわかります。しかしながら、この言葉を聞く度にガクッとなってしまいます。なぜなら、「難しいですよね」は、思考を停止してしまう言葉だからです。

視覚による体験がほとんどである「博物館」において、「視覚障害をお持ちの方」も学んだり、楽しんだりできるようにするにはどうしたらいいか、今回は自然観察会や体験講座の工夫を交えて、どんな分野でも応用可能な「発想の転換」についてお話したいと思います。デジタル機器やITが得意なわけでもなく、助成金など、このために利用できるお金があるわけではない際の事例を通して、みなさんの「難しいですよね」を「やってみようかな」に変えられたら大成功。話を聞いて、「やっぱり難しそう」と思っても（笑）、とにかくやりはじめてみる、そして、上手くいかなくても、その過程が「インクルーシブ」である、ということを知っていただけたら幸いです。